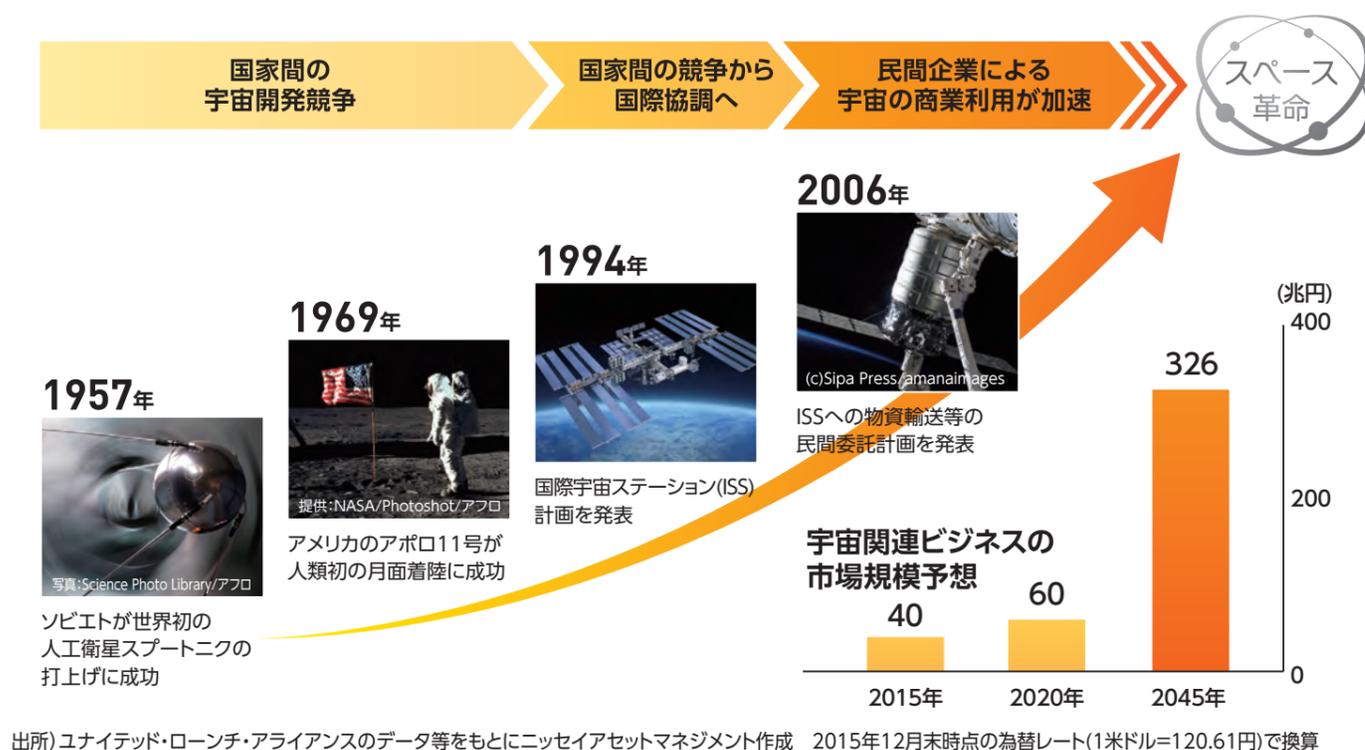


スペース革命がまさに今始まる!

宇宙はもはや特別な空間ではない

かつて宇宙は国家主導で開発される空間であったが、近年は民間企業による商業利用が急速に進展している。



宇宙からのデータはすでに身近なものに

地球をとりまく人工衛星からのデータは、もはやわたしたちの生活に必要な不可欠なものとなっている。

わたしたちは
1日平均 **36回**
人工衛星とコンタクト
していると、
言われている。

宇宙から魚を探す・育てる

衛星データを活用することで魚群の位置・量を探知。また、海洋状況を把握して効率的な養殖を行う。

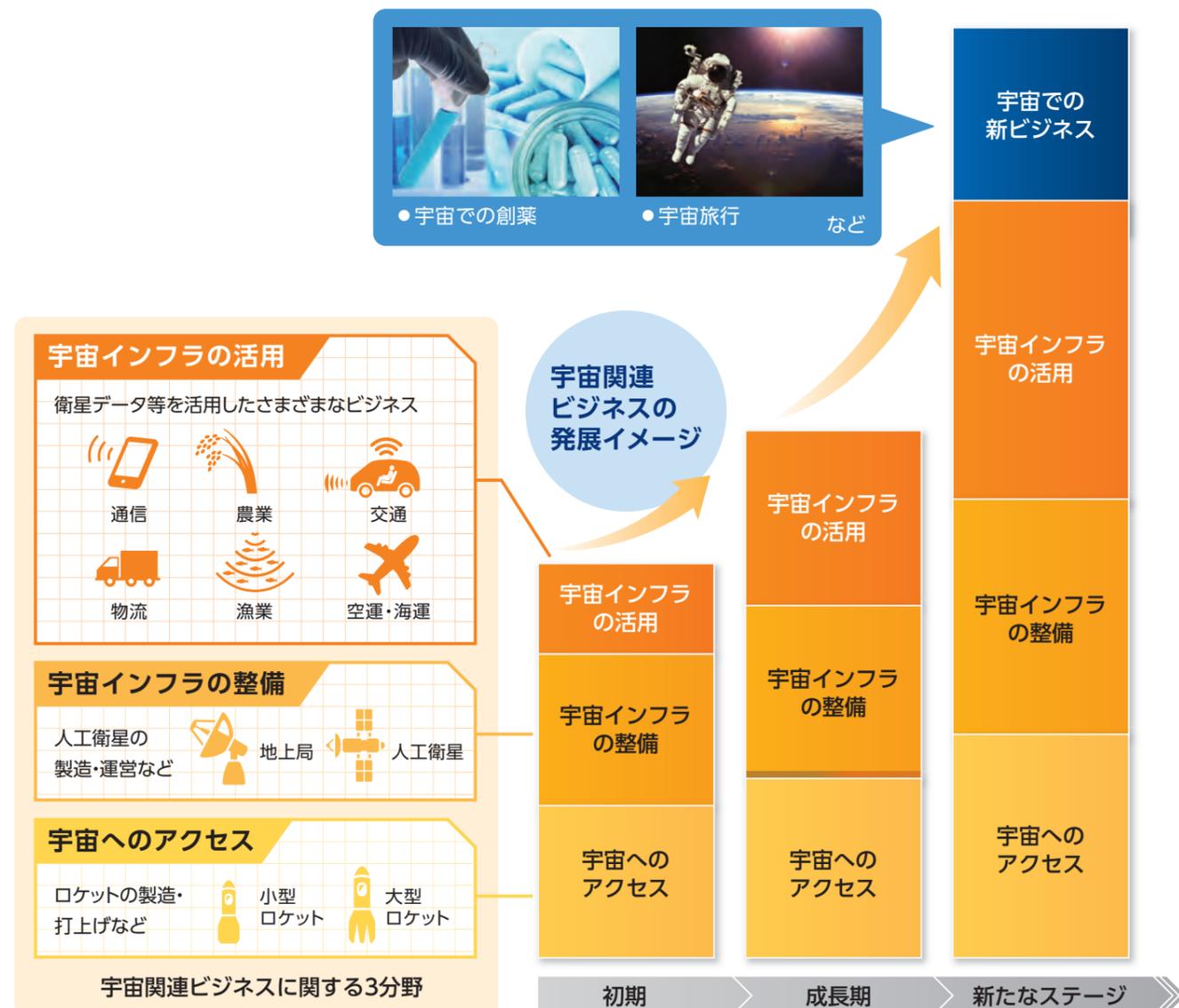
自動運転には衛星データが欠かせない

従来よりも格段に精緻化された衛星からの位置情報と、レーダーなどの周辺技術を組み合わせることで、自動運転が実現する。

出所) Seraphim Capital等の資料をもとにニッセイアセットマネジメント作成

宇宙関連ビジネスの発展は止まらない

多くの企業が宇宙関連ビジネスを展開しているが、その活躍の場としては3つの分野がある。初期は「宇宙へのアクセス」や「宇宙インフラの整備」が中心だが、将来的には「宇宙インフラの活用」の拡大が見込まれる。さらに現在では存在しないような新たなビジネスも多数誕生する見込み。



株式市場において、宇宙関連ビジネスは息の長い投資テーマ!

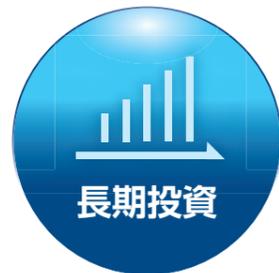
投資するタイミングに迷ったら

【ご留意いただきたい事項】投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。投資信託のご購入に際しては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的財産その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。MSCI各種指数は、MSCI Inc. が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

息の長い投資テーマに投資をしたいけど、いつ買ったらいいのかわからない…、買って値下がりしたら怖い…

そんな時には、**積立投資**ではじめてみませんか？

積立投資のポイント



長期的に投資を続けることによって、短期的な相場の動向に左右されにくくなる傾向があります。



値動きの異なる複数の資産に投資することで、資産全体の値動きを緩やかにする効果が期待できます。

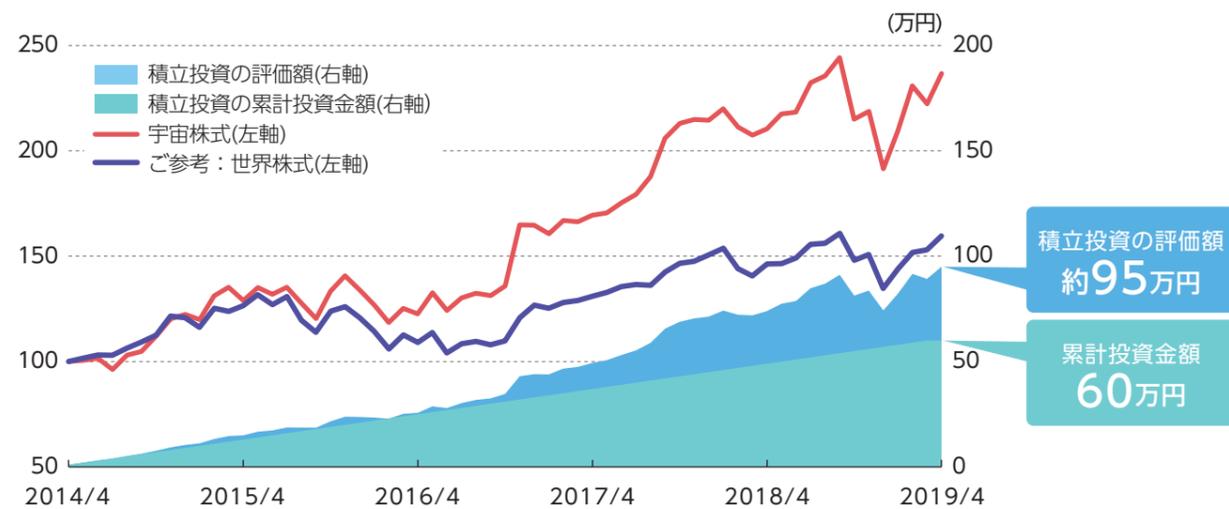


投資タイミングを分けることで、高値掴みや安い時の買い損ねを避けることが期待できます。

期待される効果 その1 **購入タイミングによる損益のムラを抑える**

定期的な同じ金額を自動的に買い付ける積立投資は、購入タイミングが与える損益のムラを抑える効果が期待できます。

■宇宙株式に毎月1万円ずつ5年間積立投資した場合のシミュレーション



データ期間：2014年4月末～2019年4月末(月次)
 出所)ブルームバーグ等のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 宇宙株式：S&P Kenshoスペース指数 世界株式：MSCIワールド指数 2014年4月末を100として指数化(配当込み、円ベース)
 費用・税金等は一切考慮していません。将来の運用成果等を示唆、あるいは保証するものではありません。

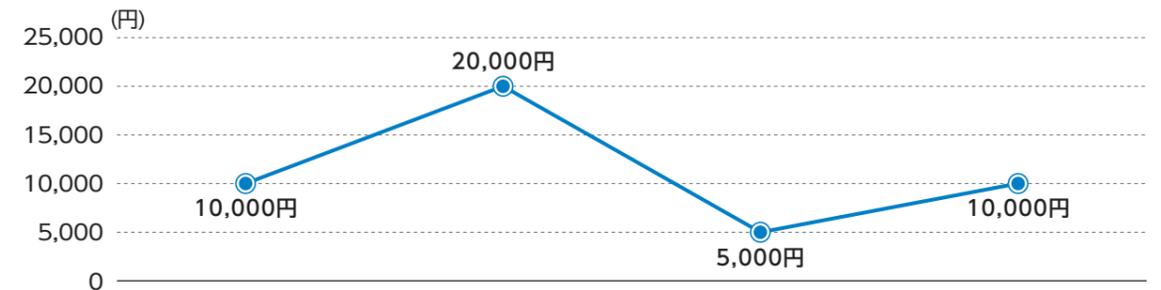
- 投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産の場合には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- 投資信託は、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、リスクを十分にご認識ください。
- 基準価額の変動要因は個別の商品毎に異なります。ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

期待される効果 その2 **平均購入単価を下げる**

定期的な一定額で同一の商品を購入する投資方法を「ドル・コスト平均法」といいます。価格が高い時には購入口数は少なくなり、価格が安い時には購入口数が多くなります。結果として、平均購入単価を下げる効果が期待できます。

■投資信託を毎回1万円分購入する場合のイメージ

基準価額(1万口当り)の推移



購入口数の推移



	第1回目	第2回目	第3回目	第4回目	合計	1万口当たり平均購入単価
購入額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	40,000円	8,889円
購入口数	10,000口	5,000口	20,000口	10,000口	45,000口	
基準価額	10,000円	20,000円	5,000円	10,000円	基準価額の平均：11,250円	

※上記は実際の基準価額を示唆するものではありません。また、購入時手数料等は考慮していません。

価格が高いときには少なく、安いときには多く買えるため、平均購入単価を下げる効果が期待できます。

<購入時に投資者が直接的に負担する費用>●購入時手数料 <換金時に投資者が直接的に負担する費用>●信託財産留保額●換金手数料
 <保有期間中に投資者が信託財産で間接的に負担する費用>●運用管理費用(信託報酬)●監査費用●その他の費用・手数料(組入る有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用、借入金の利息等)
 ※当該費用とその合計額、上限額および計算方法は個別の商品毎に異なりますので、当資料では記載していません。
 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。